

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.15

令和3年1月29日

『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

5年生、大舞台へデビュー

コロナ禍の緊急事態宣言の中、今年度の「6年生を送る会」を、どのような形で行うか検討会が行われました。

- ・密を防ぐため在校生は卒業式に参加できないので、別の場面で感謝の気持ちを伝えたい。
- ・3か月後に最高学年となる5年生の子どもたちに、自発的・自治的な力を育てたい
- ・休業期間が長かったため、教科の時間数を削ることはできない

これまでの「6年生を送る会」とは少し形を変えた取り組みが始まりました。

「密を避けるために、一人分のメッセージカードをあらかじめ準備しておこう」

「当日、対面が難しいことも考えられるので、あらかじめ動画を撮影しておこう」

「6年生にいつでも見てもらえるように、教室周りにも飾りつけしよう」

これらは、5年生による新しいアイデアです。

1月25日（金）は、各学級を訪問し、5年生が説明をする日でした。委員会活動などが例年通りにいかない年だったので、大勢の前で話をするという体験は、初めての子も大勢います。5年生にとっては、まさにデビューの日でした。

説明をする前、少し深呼吸をしました。すごく緊張していたので、深呼吸をしていました。説明するとき、すごい噛んでしまったけれど、友達がカバーしてくれました。
～5年生の振り返りから～



昼休みなどを使い、相手にわかってもらえるように読み原稿を考え、提示する具体物を作り、互いに見合っただけで伝え方を磨いてきました。

準備万端のはずでしたが、5年生の緊張感は最高潮に達していました。廊下で自分たちの出番を待つ間、子どもたちから聞こえてくる声…

「超ドキドキする！心臓が破裂しそう」

「こわいよ～」

「うまくできるか不安」

説明を終えて教室に戻ってきた友達に対して「どうだった？うまくいった？」と声をかけ合い、互いの健闘をねぎらう姿に、5年生の成長を感じます。「お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えたい」という思いを共有し、一人ひとりの子どもたちが当事者意識をもって活動していることも素晴らしい姿でした。

大勢の前で「言葉を伝える」という大きなデビュー戦を終えた5年生は、さらに高みをめざしている様子でした。

「緊張して早口になってしまった」
「説明と一緒に見せるはずのものが、上手に見せられなかった」
等々、反省点を口にしていたからです。

最初、話すときはやさが速くなってしまった。友達から「ゆっくり話す」というアドバイスももらったのに、速くなってしまった。これからはもうミスなどできなくなっていくので、一つ一つ丁寧にやっていきたいと思います。～5年生の振り返りから～



「ネガティブなことは声に出すと消える。なぜ失敗したのか、どうしたら失敗しないか考えて、一つずつ消していく」

これは、スケートの紀平選手の言葉です。紀平選手は、トリプルアクセルの完成度を上げるために、常にこういう気持ちで練習に取り組んでいるそうです。

今後は、各学級で一言メッセージの作成や、1分間出し物などを考えることとなります。2月26日の本番に向けて、デビュー戦での反省点は、きっと次の活動に生かされていくことでしょう。

新型コロナウイルス感染症の収束にはまだ時間がかかりそうですが、子どもたちが安心して生活できる学校、楽しく通える学校、思い出に残る学校であってほしいと願います。異学年が交流できるこうした活動は、学校にとっても大切に、意義のあるものだと考えます。

いじめ防止教室～4年生×プレイバック～

いじめに対するアンテナが高くなり、全国的にもいじめの認知件数が急増しています。「いじめはどこでも起こりうるもの」ですが、決して放置してはいけません。本校でも、年度当初から、特別の教科 道徳の授業や日々の学級指導の中で、繰り返しいじめの芽を積む指導をしてきました。

1月29日(金)には、感染症対策を徹底したうえで、外部講師「劇団プレイバック」の皆様をお招きし、4年生を対象にいじめ防止の授業が行われました。プロの役者が授業に参加し、子どもたちから心に傷を負った体験を聞き取り、演劇で再現することをとおして、治癒的効果を得たり、新しい視点に気付いたりする学習です。

4年生の子どもたちが、これまでの自分を振り返って、嫌だった体験や悲しかった出来事を語ってくれました。その話をもとに、3人のプレイバックさんが短い即興劇を演じてくれます。劇が終わった後、その体験を語ってくれた子に「どうだった?」と尋ねると、「まったくおんなじ」という答えが返ってきました。中には、「すっきりした」という言葉を口にする子どももいました。

「誰かを責めるようなことは絶対にしません。この時間は、誰も嫌な気持ちにならない時間です。」

「人を責めるのではなく、相手の気持ちを考える練習をする時間です」

何度も繰り返し伝えられた言葉から、「自分の気持ちを大事にしよう。友達の気持ちにも耳を傾けよう」というプレイバックさんのメッセージが伝わってきました。安心安全な学校づくりを今後も進めてまいります。



いよいよ2月1日から、南足柄市の子どもたち全員に、一人一台ずつのタブレットが支給される運びとなりました。1月には教育ネットさんを講師にお呼びし、4年生以上がプログラミングを学びました。GIGAスクールによって、教育が大きな転換期を迎えようとしています。

◆多様な子どもたち一人ひとりに対応できるように、個別最適化された学びの保障

◆これまでの教育実践に ICT を効果的に取り入れることによって、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

こうしたGIGAスクール構想の理念を共有するとともに、教職員も研修を行い、研鑽を積んでいます。来週から各学年で使い方やルール等の導入授業が始まります。

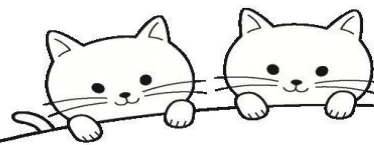
GIGAスクールに向けて

各学年で取り組んだ席書大会の作品が HP に掲載されています(2月7日まで)。子どもたちの努力がにじみ出ています。

今後もマチコミメールや HP の閲覧について気にかけていただくと幸いです。



わたしのひとりごと



緊急事態宣言発令中のある日のこと…
 一月二十一日は、三年生にとって今年度初めての校外学習の日でした。市のバスの送迎により、郷土資料館とパカブでの体験活動を行いました。
 翌日、子どもにも聞いてみました。
 「一番楽しかったことは何ですか?」
 「いろいろ楽しかったけど、一番はお弁当。キヤラ弁までいらないけど、お父さんとお母さんが早起きして作ってくれたんだ!」
 以前、二年生の校外学習の際にも、子どもたちが同じようなこと言っていました。
 「お弁当がうれしい!」
 『手作り弁当』は、子どもたちにとっては最高の贈り物、親の愛情を直に感じるものなのでしょう。
 緊急事態宣言発令中のある日のこと…
 一月二十五日、給食週間にちなんで、給食に『すいとん』ができました。そもそも給食は、およそ百二十年前、家が貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちのために食事を出したことがその始まりだそうです。戦争中の『すいとん』とは大分違って、この日のすいとんは具沢山。しかも、大根は本校の花壇で、庁務員さんが丹精込めて育ててくださったものでした。
 最近、『アタッチメント食育』という言葉に出会いました。多少栄養素が偏っていたとしても、家族そろって、楽しく会話しながら食べる幸せな食事は、子どもの心を成長させるという考え方です。大事なことは、栄養価よりも食卓をどうデザインするかです。
 学校でもアタッチメント食育への努力はしていますが、今は多くの制限があります。学校でできない部分をぜひご家庭で補ってあげてください。